

2010 ワールドカップにおいてサイドバックのオーバーラップが 試合に及ぼす影響について

石上 弥真人 (競技スポーツ学科 情報戦略コース)
指導教員 望月 聡

キーワード：サイドバック オーバーラップ 影響

1 緒言

近年サッカーにおけるサイドバック(以下 SB とする)の重要度が増している。これは組織的な守備をするチームが増え、従来ゲームを作り攻撃の起点だった中盤の選手には、相手チームの厳しいプレッシャーがかかるようになった。そのため前向きにボールを受ける機会が多く、視野を確保しやすい SB が、代わりに攻撃の起点を担うようになったと考えられる。

私は今回 SB の魅力の一つであるオーバーラップについて興味を持った。これは自身が SB としてプレーし、オーバーラップの重要性を感じていたということ。そして現在海外で活躍する SB の選手の特徴としても共通して挙げられるからである。なぜあそこまで活躍できるのか。それは豊富な運動量を生かしたオーバーラップがチームの勝利にプラスに働いているのではないかと。

そこで本研究ではサイドバックのオーバーラップが特に試合の勝敗に及ぼす影響について研究する。

2 研究方法

2010W 杯南アフリカ大会の決勝トーナメント全 16 試合の試合映像が対象。コートをもつ 4 つのエリアに分け、SB が相手陣地のペナルティエリアを含むエリアに侵入した回数をオーバーラップとしてカウントする。またその内訳として 1. オーバーラップがクロスに関わった回

数、2. そのクロスがシュートに繋がった回数、
3. クロス以外でそのままシュートに関わった回数もカウントする。

3 結果と考察

SB のオーバーラップ数は、試合結果に直接関係があるとはいえない。しかし SB が関わったクロス数とそのクロスからのシュート数は、有意差が出たと言える。これは勝利チームの方が効果的なオーバーラップをしていることがいえる。

オーバーラップが最終的にシュートに繋がる回数は、1 試合でクロスからシュート、直接シュート共に 1 回に満たない結果となった。また 16 試合中、オーバーラップからのアシストとゴールはどちらも 1 試合にとどまり、確率的には非常に低いことが明らかになった。

優勝したスペインのデータから SB のオーバーラップ数というのは、そのチームのボール支配率と深く関係があることも分かった。

4 まとめ

オーバーラップはそのチームのボール支配率と深く関係がある。またシュート、ゴールに繋がる確率は非常に低い。しかし SB が関わったクロス数が多ければ勝率が上がる。

5 参考文献

池田哲雄 (2008) サッカークリニック サイドプレーヤーの本質 ベースボールマガジン社 etc